

■ 大学院 文学研究科 地域社会システム専攻

教育研究上の目的
大学院学則第2条（目的） 本大学に設置する大学院（以下「本大学院」という。）は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。
大学院学則第6条の2（研究科及び専攻） 修士課程においては、地域社会に関する多様な領域の個別研究の成果と、諸課題に関する学際的連携による研究を踏まえて、地域社会の地理・環境、経済・政治活動、組織・集団関係、地域文化、住民の生活・活動などから構成される地域社会システムについて、その構造と変動過程の解明をめざして多面的な研究を行い、高度な専門的職業人を養成することを目的とする。博士後期課程においては、地域政策、地域計画、地域活動などの諸要素をも組み込んだ地域社会の再構築を構想する研究、教育を組織的、実践的に行うことによって新たな地域社会システムのあり方を探究し、研究者養成及び地域計画に関わる高度な専門的職業人を養成することを目的とする。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科地域社会システム専攻（修士課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「修士（地域社会システム）」の学位を授与します。 1. 地域社会の構造と変動過程に関する広い視野と見識を持っている。 2. 多角的な視点から地域社会の諸問題を考察できる能力を有している。 3. 地域社会の構造と変動過程に関する広い視野と見識を活用し、地域社会に貢献できる能力を有している。 4. 地域社会の構造と変動過程に関する広い視野と見識を生かして、高度な専門性を必要とする職業に就ける能力を有している。
【博士後期課程】 文学研究科地域社会システム専攻（博士後期課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「博士（地域社会システム）」の学位を授与します。 1. 地域社会の多様な分野を複合的に考察し、独自の視点から研究できる能力を有している。 2. 地域社会の諸問題に精通し、高度な専門性と客観的な視点から比較検討できる能力を有している。 3. 地域社会の諸問題に精通し、高度な専門性を必要とする職業に就ける能力を有している。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科地域社会システム専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。 （教育内容） 1. 社会学及び地理学を主たる構成要素として地域社会について多面的、実証的に分析し、地域社会の具体的諸課題の解決と地域社会のあり方をシステムとして複合的、総合的に構想し、実践的に取り組むことのできる専門的な能力を養成するため、「講義科目」を配置する。 2. 地域社会をシステムとして体系的総合的に認識するために、「地域社会システム研究方法論Ⅰ」及び「地域社会システム研究方法論Ⅱ」を必修科目として配置する。 3. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、各分野の専修科目において、専門的講義4単位、演習8単位を配置する。 （教育方法） 1. 講義科目では、地域社会の構造と変動過程に関する体系的、総合的な理解を得ることを目的とし、講義を踏まえた集团的討論の方法を採用する。 2. 演習科目では、地域社会に関する専門的研究能力を向上させるため、自主的研究とその発表を取り入れた演習を採用する。 3. 指導教授が、研究課題の発見、研究作業の進め方に関する研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 （学修成果の評価） 文学研究科地域社会システム専攻（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、修士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価

愛知大学 3つのポリシー（2025年度以降）

【博士後期課程】 文学研究科地域社会システム専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. 地域社会システム論における高度の専門知識を修得するため、専修科目の「地域社会システム特殊研究」を配置する。 2. 修士課程における高度な専門的能力を基礎として、さらに研究的、独創的な研究能力を育成するために、必修の専修科目の「特殊研究」4単位及び「研究演習」4単位を配置する。 3. 高度の学術論文を執筆するための研究指導を行う。
（教育方法） 1. 講義科目では、地域社会の構造と変動過程に関する高度な専門知識を得ることを目的とし、講義を踏まえた集団的討論の方法を採用する。 2. 演習科目では、地域社会に関する専門的研究能力を修士課程を越えてさらに向上させるため、自主的研究とその発表を取り入れた演習を採用する 3. 指導教授が、高度の学術論文を準備するための研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
（学修成果の評価） 文学研究科地域社会システム専攻（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、博士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行います。
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科地域社会システム専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。
1. 求める学生像 (1) 本研究科で学ぶために必要な学力を身につけている人。 (2) 地域社会への強い関心を持ち、地域社会の構造と変動過程について、主体的に研究する意欲がある人。 (3) 地域社会に関する多様な分野の専門知識を修得して、地域社会への貢献を目指す人。
2. 入学前までに修得すべき能力 (1) 人文・社会系の学問を学習するために必要な基礎的な知識。 (2) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的な能力。 (3) 自分の意見などを発表するための基礎的な能力。 (4) 他者の意見などを聞き対話するための基礎的な能力。
3. 選抜方法 (1) 一般・外国人留学生入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。 (2) 社会人特別入学試験 口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。
【博士後期課程】 文学研究科地域社会システム専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。
1. 求める学生像 (1) 地域社会の多様な分野に関する幅広い知識を修得している人。 (2) 地域社会の諸問題について、客観的な分析に基づいた論理思考により、独自の見解を体系化できる能力がある人。 (3) すでに修得した専門知識をより深めながら教育職や研究職に就く意思がある人。
2. 入学前までに修得すべき能力 (1) 人文・社会系の学問を学習するために必要な基礎的な知識。 (2) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的な能力。 (3) 自分の意見などを発表するための基礎的な能力。 (4) 他者の意見などを聞き対話するための基礎的な能力。
3. 選抜方法 外国語、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。